在宅取組型（小学校）

学 校 名 等	多治見市立精華小学校
実 施 日 時	平成２７年夏休み
会　　場	各家庭
参 加 人 数	１３３人（１２６組の親子）
学習課題（分野）	親子でおにぎりの日～防災について家族で考えよう～
運営者の願い	改めて食の大切さについて考える機会を設けたいと思います。そして、昨年度公布、施行された「岐阜県家庭教育支援条例」にもありますように、家庭の中で親子一緒に取り組むことで、家庭教育における様々な教育について、さらに考えていただく機会としていただきたいと思います。

学　習　の　内　容

＜目的＞

4 年前の東日本大震災以降、余震・地震をはじめ、土砂災害などの水害や、最近では火山の噴火が相次ぎ、日本各地で自然災害が多く発生しています。それを教訓に、“もしも”の時に備えられるよう家族で話し合い、改めて食の大切さを見直しましょう。

＜手順＞

1. おにぎりをつくりましょう。
   塩おにぎりだけでもお弁当の中におにぎりがはいっていても構いません。形や具材は自由です。
   出来上がったら提出用紙におにぎりの写真を貼りつけるか絵を描いてください。
2. 防災について家族で話し合いましょう。
3. 話しあったこと、感想、お家の型に感想を記入し、夏休み明けに提出してください。

＜掲示＞

「足跡展（9 月 1 日～3 日）」にて、学年ごとに会場に掲示します。 ⇒

＜通信に紹介された感想より＞

■災害について話し合ったこと（子ども）

○学校にいる時に災害が起きたら、先生の言うことをよく聞いて、家族が来るまで待っています。○避難する時は、エレベーターを使わない。 ○頭を守ります。 ○水が家族の人数に対して足りないことが分かったので、買い足しました。 ○戦争や原爆のことについても話し合った。 ○一人になっても逃げる。 ○おにぎりは皿や箸がなくても食べられる。 ○もし自分が動けて周りの人がけがをしていたら、頑張って周りの人を助ける。 ○冷蔵庫にいれなくてもいい、ゴマと鰹節のおにぎりにしました。

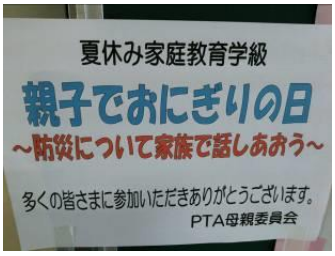
■感想（子どもから）

○災害の時はお母さんが作ったごはんが食べられない日が続くと思うと涙が出そうです。
○当たり前のように食べていた食べ物のありがたさが分かりました。 ○私とお母さんとお父さんと弟で作ったおにぎりは売っているおにぎりよりもっとおいしかったです。 ○私だけ家族と離れている時にどうするか話し合いました。 ○緊急伝言ダイアルの使い方を教えてもらいました。 ○初めておにぎりを作ったのでどうやればいいか全くわかりませんでした。思ったように三角にできなくて悔しかったです。 ○ママが「おいしい」と言ってくれたので嬉しかったです。 ○うちはオール電化だからカセントコンロがいることがわかりました。 ○災害時は具やマヨネーズはないかもしれないことがわかりました。

■感想（お家の方から）

○もしもの時、子どもをちゃんと守ってやれるか不安になりますが、できることからやっていきたいと思いました。 ○備品のチェックもできました。 ○色々な場面を想定して話し合えました。 ○NHKの防災のテレビ番組を見てから話し合いました。お互いを信頼して、一人でも逃げるということを話し合いました。 ○ポリ袋でご飯が炊けることを知り試しました。災害時は様々な不便があることも子どもに伝えることができました。 ○晩御飯でいただきましたが、家族そろって自分の家で食べられることの大切さを感じました。 ○おにぎりを作ってみて、ビニール手袋を防災BOXに入れました。 ○避難場所をはじめて知りました。 ○多治見市ハザードマップを使い、危険な場所や予想されることを考えました。通学班などでも話し合う必要があると思います。

通常の『おにぎりの日』の在宅取組型に『防災』を併せ、取り組みやすい形で家族の話し合いを促す機会を投げかけられました。今までと違った角度からの視点で取組を広げ、意義を深められています。また、家庭教育支援条例にも触れ‘親子で一緒に’ということも大切にした取組にされました。

今回に限らず家庭教育学級がある度に発行されている取組前後の通信が素晴らしいです。今回は夏休みの任意の取組ですが、通信には実施前から紹介（掲示）される場を明記したり、実施後には多くの感想を紹介されたりしています。参加した家庭は‘やって良かった’、参加しなかった家庭は‘やればよかった’‘次はやってみようかな’という気持ちになる対応のよさです。

参加された家庭では、投げかけた目的通り、食の大切さや日常生活のありがたさを親子で感じられた様子が感想からよく伝わります。